

沼田で見つけた ちよつぷどい暮らし



山村和生さん、聡子さん
- 宇楚井町 -

移住後に飼い始めたペットとの触れ合いは心安らぐひととき



【写真左から】庭に造ったスノーボードの練習設備/夕暮れ時の散歩。田んぼの水面がオレンジ色に染まるさまもお気に入りに入り/毎シーズン60回以上はスノーボードを楽しむ

「眼下に広がる美しい山々。この景色に飽きることはありません」。2017年、山村聡子さんは夫の和生さん、子ども2人の家族4人で千葉県から移住。市内の企業でIT関連の仕事をしています。

和生さんが趣味のスノーボードを楽しみたいと、約20年前から家族で利根沼田地域を訪れていました。愛着が増すにつれ、和生さんが勤務地の東京まで通えることを第一条件に、生活の利便性が充実し、自然豊かでのびのびとした環境で子育てができることから移住を決めました。

移住後、山村さんは沼田で就職。前職を生かしながら、幅広い業務を任されています。地域の活動にも積極的に、地区の班長や育成会長、子どもたちの学校の役員などを引き受けてきました。野菜のお

裾分けがあったりスマホの使い方を教えたりと、近所付き合いにも感謝しています。

一方、東京へ約2時間かけて通勤する和生さんは、新幹線のオフィス車両で仕事を進めたり、音楽を聴いたりして過ごしています。市の新幹線通勤費の補助制度を第1号として利用し、「通勤費の一部に充てられて助かりました。満員電車の疲労も軽減」と話します。

仕事の基盤はそのまま、生活環境を変えた山村さん一家。「沼田への移住に向いている人は周りとは比べない人。沼田にないものもありますが、それらをも信じたものを好きと言える人なら楽しめます」。 「デジタル寺子屋×保護犬猫カフェ」のように、いつかは教育と福祉に関わる活動をしたいと思ひ描きます。

スノボで通った沼田へ移住